

臨床工学技士（CE：Clinical Engineers）とは

1987年5月に制定された『臨床工学技士法』に基づく医学と工学の両面を兼ね備えた国家資格です。臨床工学技士はメディカルスタッフの一職種であり、現在の医療に不可欠な医療機器のスペシャリストです。医療機器の安全確保と有効性維持の担い手としてチーム医療に貢献しています。人工呼吸療法・血液浄化療法・医療機器の管理など生命維持管理装置の操作及び保守点検を行なうこと業務としています。

当院での臨床工学技士の業務

1.血液浄化療法業務

慢性腎不全の患者様に対し、腎臓の機能を代行する人工透析療法をはじめ、肝臓疾患に腹水を濃縮し患者様に戻すCART、閉塞性動脈硬化症に対してのLDL吸着療法など様々な業務を行っています。



2.医療機器管理業務

院内の医療機器の購入から廃棄までの年間計画を立て保守管理を行っています。使用中の機器の日常点検や使用前の始業点検・使用後の終業点検、貸出・返却管理を行い、医療機器を安全に効果的に使用できるように努めています。また医療機器の使用方法等の学習会を定期的に行い使用者教育を行っています。



CE interview

巨摩共立病院 臨床工学技士の石田優衣です。女性社会の中では未だマイナーである臨床工学技士を目指したのは、高校生の時です。エンジニアとして働く父に憧れを抱く一方、医療従事者として病院で働きたい夢もありました。そんな中インターネットで医療従事者について調べると“いのちのエンジニア”というワードを知りました。

現代の医療は高度な医療機器がなければ成立しない。その医療機器を熟知し、安全に動くようにすることで医療を支える。この言葉がきっかけとなり臨床工学技士を目指し始めました。



大学では医学と工学、双方の専門知識を詳しく学びました。



この度巨摩共立病院へ配属される運びとなり、地域の患者さんに寄り添い、忙しくも充実した日々を過ごしています。これからも高度化する医療に対し臨床工学技士として、技術力を向上していきたいです。

